

思考力・判断力・表現力を育む学習活動の工夫

—— 言語活動における学び合いを生かした授業づくり ——

言語活動の充実研究会議

岡本 由希子¹

西村 勇一郎²

高橋 健一郎³

根田 もゆる⁴

要 約

知識基盤社会といわれる中、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知識や価値を創造する能力が求められている。また、グローバル化が進み、多様な集団の中で交流する能力や、自分と異なる意見や考えを認めたり、様々な価値観をもった人の中でコミュニケーションをとったりする場面も必要となってきた。これからはあらゆる問題に対して、それらを解決するために必要な情報を集めたり、情報を活用したりして人と協力しながら問題解決にあたっていく力が求められている。しかし児童生徒の実態として、自分の考えたことを相手に分かるように説明したり伝えたりすることや、一つのことをじっくり考えることを面倒がる傾向も見られる。このような児童生徒の実態を踏まえて本研究は、問題を解決するまでのプロセスにおいて言語活動を行うことにより思考力・判断力・表現力等が育まれると考え研究を進めた。具体的には単元の指導計画の中に言語活動を位置付け、学び合うことに重点を置いた学習活動を検証授業の中で試みた。これらの学習活動を繰り返し行うことで児童生徒が問題解決に向けてじっくりと考える姿がみられるようになった。

キーワード：思考力・判断力・表現力、言語活動、学び合い

目 次

I 主題設定の理由	26	(2) 検証授業Ⅱ	32
1 児童生徒の姿	26	(3) 検証授業Ⅲ	37
2 教師の意識調査から	26	Ⅲ 研究のまとめ	42
3 言語活動の充実の必要性	27	1 研究から見てきたこと	42
II 研究の内容	28	(1) 思考力・判断力・表現力を育む	
1 研究の進め方	28	言語活動の充実	42
(1) 評価規準を明確にした単元計画	28	(2) 授業づくりで大切なこと	43
(2) 授業内容の工夫	28	2 今後の課題	43
2 授業の実際	29	参考文献	44
(1) 検証授業Ⅰ	29	指導助言者	44

¹川崎市立桜本中学校総括教諭（長期研究員）

²川崎市立子母口小学校教諭（研究員）

³川崎市立京町小学校教諭（研究員）

⁴川崎市立西高津中学校教諭（研究員）

I 主題設定の理由

1 児童生徒の姿

問題解決的な学習を行う場合、班での話し合い活動を取り入れることが多い。その際に、児童生徒が自分の思っていることや考えていることを相手に分かるように説明したり、伝えたりすることを面倒がる姿がある。また一つの学習課題に対してじっくり考えずに、解決に向けて答えを急いで求める傾向が見られる。その原因として考えられることは、教師が児童生徒に知識の伝達を重視するあまり、教え込み、記憶させるような授業になってしまったり、結果を出すことに重点を置きすぎ、一つのことをいろいろな選択肢を出しながら比較検討し続けるような学習活動が十分保障されていなかったりする状況があるのではないだろうか。

しかし、話し合いの時間を十分にとり、児童生徒の経験したことや体験したことの中から課題を発見させたり、また興味・関心の高い課題や工夫された課題が設定されたりしている場合は、考えを発展させる充実した話し合いができ、そこでのふり返りの記述も深まりがみられる。このように児童生徒が意欲的に学習に取り組んだり、仲間と積極的に伝え合ったりしていくためには、学習課題について感じたことや思ったことを互いに伝え合う場における言語活動を充実させる学習活動が大切ではないかと考えた。

2 教師の意識調査から

川崎市内の小学校、中学校の教師および児童生徒に対して授業に関するアンケート調査（言語活動の充実に関する意識調査）を行った。

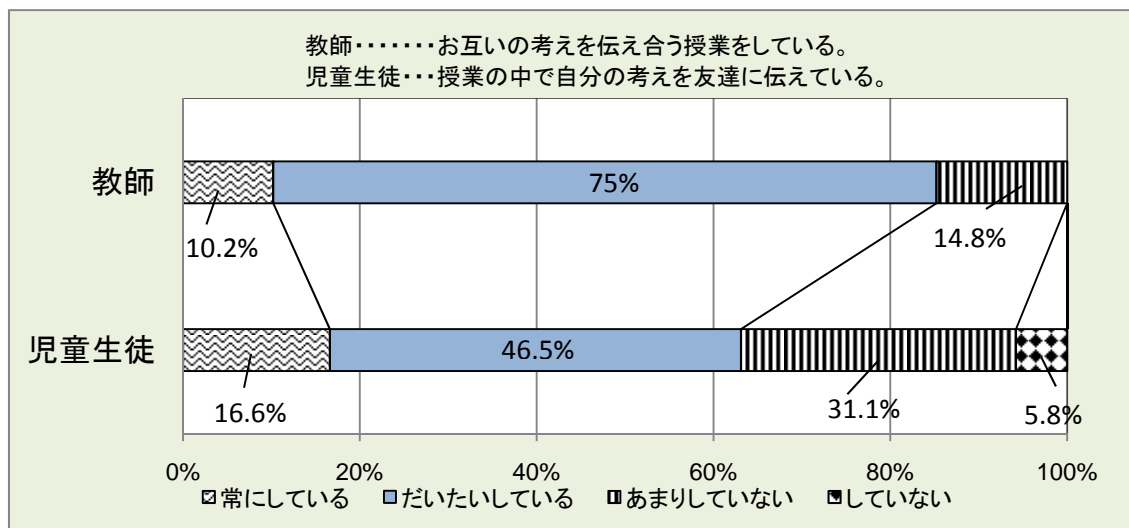


図1 「言語活動の充実」に関する意識調査（川崎市内小学校・中学校教師88名、児童生徒944名対象）

その中で「お互いの考えを伝え合う授業をしている」（図1）の質問では、85%以上の教師が「常にしている・だいたいしている」と答えているのに対し、「授業の中で自分の考えを友達に伝えている」では、「常にしている・だいたいしている」と答えている児童生徒は63%にとどまっている。この結果から、お互いの考えを伝え合う授業をしている教師が多いのにもかかわらず、児童生徒の中には、自分の考えをなかなかうまく友達に伝えられていない子どももいるのが現状なのではないだろうか。

また「自分の考えや集団の考えをさらに発展させるように授業をしている」（図2）という質問に対しては、「常にしている・だいたいしている」と答えている教師は、52%となっている。図1、図2の教師の意識調査の結果から、授業の中でお互いの考えを伝え合う授業をしているが、その考えをさらに発展させる学習活動をするのが難しいと感じている教師が半数近くいることが分かる。この原因としては、話し合ったことを班ごとの報告のみで終わらせてしまったり、ねらいにせまる話し合いまで

に到達していなかったりすることが考えられる。これらのことから教師は、児童生徒の考えや集団の考えをさらに発展させるような学習活動の具体的な方法がつかめないではないだろうか。

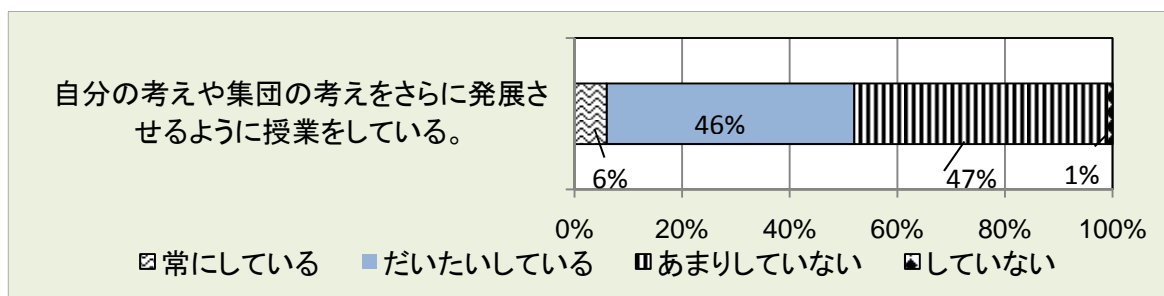


図2 「言語活動の充実」に関する意識調査 (川崎市内小学校・中学校教師 88 名対象)

3 言語活動の充実の必要性

今回の学習指導要領の改訂に伴い総則では、配慮事項として「児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動を充実すること」¹⁾ といっている。また平成 20 年答申では、「思考力・判断力・表現力等を育むためには、例えば右(表 1)の①～⑥までの学習活動を各教科において行うことが不可欠である」²⁾ としている。この①～⑥までの学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語を通じた学習活動を充実させることにより、「思考力・判断力・表現力等」の育成が図られるとされている。児童生徒の現状や児童生徒と教師の意識の違いを踏まえ、それらの問題を解決するために特に③と⑥の学習活動に重点を置いて研究を進めた。そして、これらの学習活動を実践するために、本研究において「学び合い」とは、課題に対して自分の考えをもち、それを相手に分かりやすく説明して伝えたり活用して伝えたりすること、そして児童生徒が仲間と共に考えを出し合い、互いの考えを比較検討する中で考えを発展させる学習活動ととらえた。

今、学習活動で大切にしなければいけないことは、多くの知識や技能を習得することだけではなく、結果に至るまでの思考をしていく活動なのではないだろうか。これらの学習活動を有効にしていくためには、言語活動の充実を授業の中にどのように位置付けていけばよいか課題となる。各教科の目標を達成させるためにも思考力・判断力・表現力等を育む授業は重要であり、その手段として言語活動を充実させる必要がある。そして言語活動の充実を学び合いという学習活動の中で図ることで思考力・判断力・表現力等が育まれていくのではないかと考え、研究主題を次のように設定した。

表 1 思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動例

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

研究主題 **思考力・判断力・表現力を育む学習活動の工夫**
 —— 言語活動における学び合いを生かした授業づくり ——

¹⁾ 文部科学省 『小学校・中学校学習指導要領解説 総則編』 2008 年 9 月 p 52 より抜粋
²⁾ 文部科学省 『言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～』
 【小学校版】2010 年 12 月 p p 5-6 より抜粋

Ⅱ 研究の内容

1 研究の進め方

(1) 評価規準を明確にした単元計画

指導計画をたてる際に単元または題材の中でどこに言語活動を位置付けていくか、またどのような言語活動を取り入れていくのか検討を行っていく必要がある。その際に単元（題材）の目標（付けた力）を明確にし、その単元の目標を達成させるためにどのような言語活動を取り入れることが効果的かを考える。これは教師が単元の目標を意識して指導計画を立てることで、児童生徒にどのような言語活動をさせていけばよいのかを具体化させることができるからである。また、児童生徒がその単元で身に付けるべき能力は何か、また、そのためにどのような学習活動を行うのかを単元の冒頭で示しておくことで、今自分が行っている学習の意味を実感し、各自が見通しをもって学習ができ、それとともに学習意欲が向上すると考える。

(2) 授業内容の工夫

① 学び合うことに重点を置いた学習活動

従来の授業は、課題解決に向けて話し合ったことをグループでまとめた意見を発表し、教師がその意見を集約し、ふり返りで感想を書くという流れのことが多い。問題解決的な学習に必要なことは、安易に解決策を出して終わりにしてしまうのではなく、問題解決のプロセスを大切にしたい。その際、「それってどういうこと？」と事柄を確認したり、「何でそう思うの？」と理由を聞いたり、また「比べてみてどう？」と比較検討し関連付ける学習活動を促す問いかけを学び合いの場で適切に位置付けることで児童生徒の思考が深まっていくと考えた。

② テーマ・目的を常に意識した学習活動

学び合う中で話し合っているテーマがぶれてしまうことは多々ある。そのためにもゴールを意識させ話し合いのテーマを提示していくこと、またそのためには話し合いにかかる時間を十分にとることが必要となってくる。児童生徒が、今自分は何のためにどこの学習を行っているかを意識することによって目的をもって学習することができ、課題に向き合い、話し合いの内容をより深めることができる。

③ 思考過程の可視化

ア) 学び合いの場面

問題解決的な学習で学び合いを進めていく中、話し合いの結果だけが残し、結果に至るまでの思考過程が児童生徒の元に残らず、学習の成果を実感しにくいといった側面がある。したがって学び合った言葉や思考の流れが目で見える形に残すようにする工夫が必要である。グループでの話し合いの場合、考えを付箋等に記入し、言語を発する中で思考を深化させていく過程が目に見える形で共有することが大切である。話し合うだけでなく思考過程を可視化させるような操作を取り入れていくことにより、学び合いが活発になる。

イ) ふり返りの場面

個人でのふり返り活動では、ただ授業で学習したことの感想を書くのではなく、なぜそう思ったのかなどの根拠を明らかにすることが必要である。また学習目標に対して「何を」「どう」取り組んで、「どうだった」のかを具体的に表していくことも大切である。そして学習前と学習後での自分の考えがどのように変わったかを書くことで思考を整理することができる。このように視点をもってふり返りを書くことで得られた知識をもとに考えを再構築する機会となり、学習の目的に対する理解度が深まると考えた。

2 授業の実際

(1) 検証授業 I

①単元名・・・『MY 古都メモリー』で京都・奈良の魅力を伝えよう

中学校3年生対象 国語科 3時間扱い

②単元の概略

中学生は小学生のときから国語の時間や他教科・学活等でスピーチやプレゼンテーションなどをしたりまたそれを聞いたりする活動を経験してきている。しかし、あらかじめ用意した原稿を読みあげるだけだったり、伝えたいことがあいまいなままその場限りの発表になってしまったりすることが少なくない。そこで、伝える目的と相手をはっきりさせ、より効果的な伝えかたを考えさせたい。

③単元の目標・・・総合的な学習の時間に作成したメモリーマップを活用して、古都の魅力を分かりやすく伝えるプレゼンテーションをすることができる。

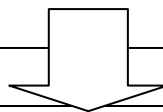
④評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中の様々な話題に関心を持ち、プレゼンテーションを通して、自分の意見や感想を聞き手が納得できるように伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のプレゼンテーションについて説得力を増すために、話し方を工夫したり資料などを活用したりして話をしている。 プレゼンテーションを聞いて、話の内容や話し方についての適否などを判断し、自分のものの見方や考え方を深めたり、自分の話し方の参考にしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。(第2学年)

⑤単元の指導計画・・・(3時間扱い)

総合的な学習の時間 (2時間)




○京都・奈良での資料(パンフレットや写真等)を取捨選択して、京都・奈良のキャッチコピーを添えたメモリーマップを作成する。



時間	評価規準と評価方法	主な学習活動	言語活動
1 本時	<p>[話・聞] 自分のプレゼンテーションについて説得力を増すために、話し方を工夫したり資料などを活用したりして話をしている。(話し合いの様子、ワークシート)</p> <p>[言] 相手や目的に応じて、発表の仕方に違いがあることを理解している。(ワークシート)</p>	<p>○プレゼンテーションの練習を行う。</p> <p>・学習活動について(一斉) 5分</p> <p>・プレゼンテーション練習(個人) 10分</p> <p>・班でプレゼンテーション(小集団) 30分</p> <p>たずねあい、アイデア、送り合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手と目的を想定し、聞き手に魅力が伝わるようにプレゼンテーションをする活動 気付いた点やよかった点、アイデアや助言を自分の言葉で発表者に伝える活動

2 3	<p>[話・聞] 互いの発表を聞き合い、よりよい発表のために助言し合い、自分の表現に生かしている。 (発表の仕方)</p> <p>[関] 友達の助言を生かしながら、資料を活用し、説得力のある発表を行おうとしている。(発表の様子、ワークシート)</p>	<p>○発表を行う 「古都の魅力を伝えよう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発表における条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3分以内 ・ メモリーマップを用いる ・ キャッチコピーを発表する工夫 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制約条件にそってプレゼンテーションを行い、よりよい発表のために助言し合う活動 ・ 資料を活用し説得力のあるプレゼンテーションを行う活動
--------	---	--	--

⑥本時の展開

<p>生徒の活動</p> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 20px; vertical-align: middle;"></div> は言語活動	<p>☆教師の働きかけ</p> <div style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 100px; height: 20px; vertical-align: middle;"></div> は評価
<p>1 本時の流れと目標について把握する。</p>  <p>2 目標を意識して制限時間、メモリーマップの活用などを考えて練習を行う。</p>  <p>(1回目は構想を練る、2回目は隣の人に向けてプレゼンテーションの練習を行う)</p> <p>3 4人グループで発表し合い、たずね合いとアイデアの伝え合いを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表する観点、聞く観点を理解してから行う。 ・ 一人ずつ時間を計って発表する。 ・ 一人の発表が終わるたびにたずね合いとアイデアの送り合いを行う。 </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○相手と目的を想定し、聞き手に魅力が伝わるようにプレゼンテーションする活動</p> <p>○気付いた点やよかった点、アイデアや助言を自分の言葉で発表者に伝える活動</p> </div>	<p>☆プレゼンテーションをする際の注意点を確認する。</p> <p>☆文化祭で後輩や小学生に向けて、京都・奈良の魅力を伝えるプレゼンテーションをめざすことを意識させる。</p> <p>☆キャッチコピーを発表するタイミングなどを考えさせる。</p> <p>☆3分間をタイマーで計りながら練習をさせる。</p> <p>☆資料などを効果的に活用して分かりやすく話すように指導する。</p> <p>☆たずね合いやアドバイスの送り合いがうまくいっているか机間指導を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[話聞] 京都・奈良の魅力をプレゼンテーションするために語句や文、話す順番を考えている。</p> <p>[言] 相手や目的に応じて、発表の仕方に違いがあることを理解している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を想定した発表だろうか。 ・ 言葉足らずな箇所はないか。 ・ キャッチコピーを提示するタイミングは適切か。 ・ 聞きづらい表現はないか。 ・ 資料を活用しているか。 ・ よりよいプレゼンテーションのためのアイデアを出し合っているか。 </div>

4 本時のふり返しを行う。
本時の学習で気付いたことをまとめる。



☆プレゼンテーションを行うにあたっての自分の目標に対してのふり返しをさせる。
☆本時の学習を次回の学習に生かすよう促す。

(思考力・判断力・表現力を育むための学習活動の分類 表1の⑥)

⑦授業の考察 (○は言語活動にかかわる成果、●は課題となる点)

- プレゼンテーションを行うときに原稿を読むのではなく自分の言葉で表現できている生徒が多く見られた。また、時間を見ながら、自分のこだわりを大事にして精選しながらプレゼンテーションを行っていた。これは修学旅行という体験を通しての発表であることと、プレゼンテーションを何回か経験してきたこともあり時間や内容についての配慮ができるようになったのではないかと考えられる。
- このような学習活動を繰り返すことで、他の人へのアドバイスがより具体的にできるようになってきた。
- 前回のプレゼンテーションを生かして、課題をもって次へのプレゼンテーションにつなげられる生徒が多かった。
- プレゼンテーションでのアドバイスを付箋に書くようにしたが、書くことに気をとられてしまった生徒が多かった。お互いの考えを伝え合うためには、付箋を使わずにアドバイスをもらい、本人がワークシートに記述する方がよかったのではないだろうか。

⑧ふり返しを通して

「分かりやすく話すポイント」を明記したワークシートAと明記しないワークシートBの2種類用意した。その結果、プレゼンテーションの目標設定の内容とふり返りの記述内容に違いが見られた。

自分の目標 (どんなことに注意・工夫するか)	ふり返りの記述
メロスのときの失敗を生かして間をあけることや強弱に気をつける	間をあけるところはうまくできたと思うけど、強弱があまりなかったと思います。声の大きさが小さいので大きくするということができました。
お客さんの目を見て、ゆっくり聞こえやすいように話す。	ゆっくり話すことができました。○○のアドバイスは、とてもよくてためになったので今度るときにいかしたい。
できるだけ相手を見て話す。2年生のときは緊張して速くなってしまったのでゆっくり話す。	みんなを見ながら発表できてよかったです。でも伝えることは、まだまだなので頑張りたいです。
調べてわかることは言わないようにする。(あきない話) 早口にならないようにする。言葉に調子をつける。	あきないような話ができたといい気がする。早口にもならずにできた。あとはもっと話をまとめられるといいなと思いました。
声を大きくして間をあけるところはちゃんとあけて人の目を見る。	目標である声を大きくすることはできていました。場所の発表を変えるときに、間をあけた方がいいと思いました。
聞いている人がなるほどって思うプレゼンをしたい。	まだ、「なるほど」までにはいかなかったけど、いっぱい練習をして友達のアドバイスを参考にして、本番にのぞきたいと思いました。
一つ一つの場所の魅力をしっかりと伝え「なるほど」と感じてもらえるようなプレゼンにする。速くなりすぎないようにする。	何を言いたいかまとめておいても実際にやってみると全然言えなくてしっかり練習することが必要なと思いました。「そうなんだ」といってもらえたので目標に近づいているなって思いました。
誰にでも京都・奈良の魅力が伝わるように内容、話し方のコツに気をつける	気を付けていたはずの話し方が発表にふさわしくない感じになってしまったので、気をつけたいです。

は、図3のワークシートA (付箋を使ったもの) を使用した生徒の記述例

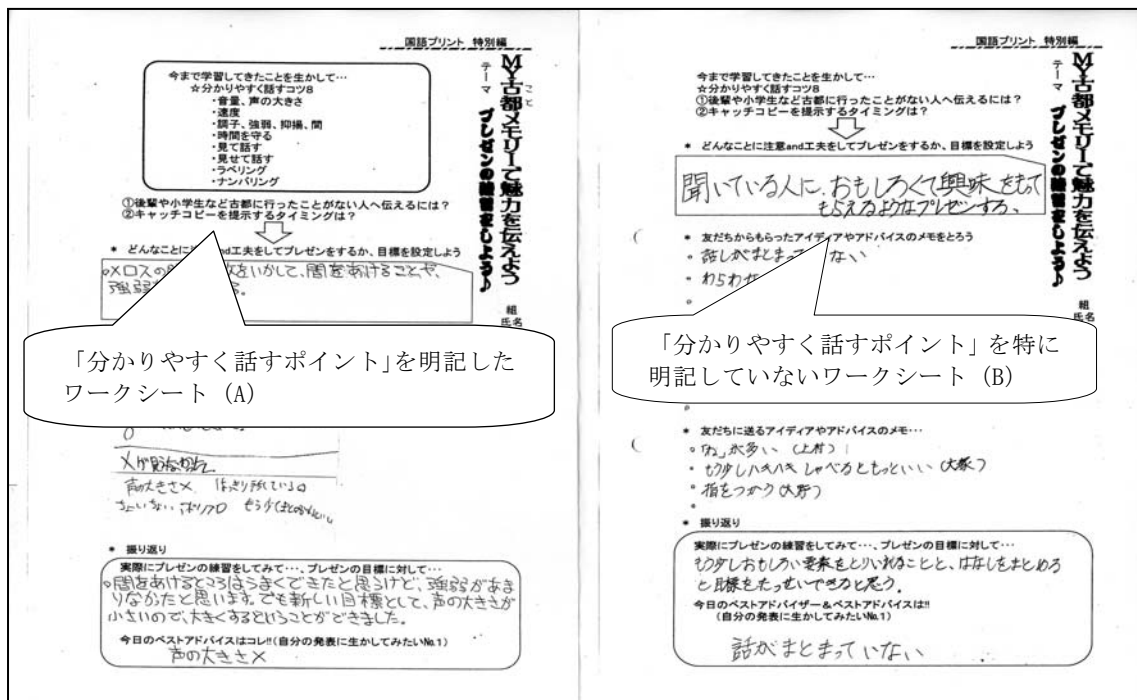


図3 ワークシート記述例

ア) ワークシート A を使用して

自分の目標設定を「分かりやすく話すポイント」に観点を置いている生徒が多く、「声の大きさ」「キャッチコピーの出し方」など、技術的なことを記述している生徒が多かった。したがって「古都の魅力を後輩に分かりやすく伝える」ための自分の目標に対してどのように取り組んで、次にどう生かすのかを具体的に記述するまでには至らなかった。これはワークシートに明記されている「分かりやすく話すポイント」に意識がいつてしまっていることや目標設定をするときに教師の助言が必要だったのではないかと考えられる。

イ) ワークシート B を使用して

「声の大きさ」などの技術的なものを目標にしている生徒もいたが、「分かりやすく」や「京都・奈良の魅力が伝わるように内容・話し方のポイントに気を付ける」など、本来の単元の目標に近いものになっている生徒が多くみられた。このことから「分かりやすく話すポイント」を明記しない方が技術的なものにとらわれずに、本来の単元の目標に近い目標設定ができてよかった。

ウ) ふり返りから分かること

ワークシート A、B どちらのワークシートにおいても自分の学習目標に対して「できたか」「できなかった」のふり返りで終わっている感じが見られた。ふり返りを書かせる場合、自分の目標に対して具体的にどのように取り組んだのかなどの視点をもたせて記述させることが必要である。

(2) 検証授業 II

① 単元名

「開国から世界へ」～世界に追いつけ、追い越せ～ 小学校 6 年生対象 社会科 7 時間扱い

②単元の概略

徳川幕府の長期政権のよさや問題点について調べ学習を進めてきた。幕末の外国からのアプローチに対して、断りきれなかった国内情勢や事情を知り、鎖国をやめざるを得なかったことや不平等条約を結ばざるを得なかったことについて考えさせることから単元をスタートさせた。新しい政府は不平等条約を改正するために、国力を高め、国際的地位を向上させることを根幹に据えた政策を進めていったことやそのことを推進した人々がいたことについての考えを深めさせたいと願い、今回の単元を設定した。

③単元の見目標

開国をせまられ不平等条約を結んだ過程や明治政府のめざした国づくりと政策の内容について調べ、人々の暮らしの変化や政治の願いにも目を向けながら、不平等条約改正までの道のりをとらえるとともに日本の国力の高まりについての考えを深める。

④評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
幕末から開国までの状況や明治維新の政策、人々の暮らしの変化について関心を持ち、意欲的に調べ、考えようとしている。	開国から近代化をめざした明治政府の主な内容や人々の暮らしの変化を調べ、そのかわりや意味について考えたことを適切に言葉や文章で表現している。	写真や図解、各種データなどから開国による影響や明治維新の行った諸改革による社会の変化や近代化、不平等条約の改正までの動きなどについて必要な情報を集めて読み取っている。	開国までの状況や近代化をめざした明治維新の主な政策、人々の暮らしや社会の変化、国力の高まりなどについて理解している。

⑤単元の指導計画（7時間扱い）

時	評価規準と評価方法	主な学習活動	言語活動
1	[関]近代化や国の力を付けることをめざした明治政府の改革や人々の活躍などに関心を持ち調べようとしている (話し合いの様子、ノート)	・開国による人々の暮らしの変化や新しい政治をめざす動きの強まっている状況について調べ、武士の世界が終っていく経緯についての考えをもつ。	・各自、教科書や資料を用いて調べたことをノートにまとめ、分かったことを整理する活動
2	[関]ペリー来航の様子などを資料から創造し、幕末の状況について考えようとしている。 (話し合いの様子、ノート)	・黒船来航とそれに対する幕府の対応を調べ、外国との交易が始まっていく流れをつかむとともに不平等条約についてとらえる。	・黒船、ペリー来航の資料から感じたことを発表し合う活動
3	[知]不平等条約を結ばなければならなかった理由などについて考え、幕末の状況を理解している。 (話し合いの様子、ノート)	・どうして不平等条約を締結したのかを考え、話し合う。	・不平等条約の内容を確認し、それについての感想をもとに班で話し合いをする活動 ・班での意見を分類したり関連付けたりし、話し合ったことを基にしてノートに考えをまとめる活動
④ 本 時 5	[思]欧米諸国と肩を並べる国になるために新しい政府は何をしていくべきか考え、言葉や文章で表現している。 (話し合いの様子、ノート)	・欧米の国々と肩を並べ、同等かそれ以上の関係を築いていくために明治政府はどうしたらよいのか事実に基づいて話し合い、考えを深める。	・新しい政府がどんなことをしていけばよいのか根拠を明らかにして班の人に説明する活動 ・班での意見を分類したり、関連付けたりする活動 ・他の班の意見、その根拠を聞いて比較、関連付けて考える活動

6	[知]主な4つの改革の概要や関係する人物について調べ、内容を理解している。 (ノート、テスト)	・西洋に追いつき、国力を高めるために実際に政府が行った主な4つの改革の内容について調べ、考えをもつ。	・政府が行った改革を調べまとめる活動 ・前時に考えたことと実際に行われた改革を比較し、自分の考えをまとめる活動
7	[技]資料を活用して必要な情報を集め、活用している。 (話し合いの様子、ノート)	・変わってきた人々の暮らしや学校教育の変化などを調べ、西洋化が進んできたことを捉え、人々は満足したのかどうかについて話し合う。	・日本の文化の発展についてとらえ、そのことが国力の高まりに関係するのか根拠を明らかにしながら班の人に説明をする活動

⑥本時の展開 (2時間扱い)

児童の活動	は言語活動	☆指導・支援	は評価
<p>1 本時の学習について把握する。</p> <p>・前時までに学習したことについて確認する。</p> 		☆本時の学習手順を知らせる。 (話し合う内容・手順・方法)	
<p>欧米諸国と同等の関係を築いていくためには、新しい政府はどのようなことをしていけばよいかを考えよう。</p>			
<p>2 学習問題について個人で考える。</p> 		☆ワークシートに考えたことを記入し、なぜそう考えたのか理由も書かせる。	
<p>3 学習問題について班で考える。</p> <p>①自分で考えたことを付箋に記入する。</p>  <p>②なぜそう考えたのかを班の人に説明をし、付箋を画用紙に貼る。</p> 		☆最初の自分の考えに固執せずに他の考えも参考にしながら柔軟に考えるよう助言する。	
<p>新しい政府がどんなことをしていけばよいか、なぜそう思ったのか理由を班の人に分かるように説明する。</p>			
<p>③付箋に貼られた意見を分類していく。</p>   		☆班での考えが「不平等条約をなくす」などのように具体的でない場合は、さらにそれを解決するにはどうすればよいかを話し合うように促す。	
<p>社会的な思考・判断・表現 欧米諸国と肩を並べる国になるために新しい政府は何をしていくべきか考え、言葉や文章で表現している。 (話し合いの様子、ノート)</p>			
<p>班での意見をキーワードで分類したり、内容を見て関連づけたりする。</p>			
<p>④班で意見を一つにまとめ、ホワイトボードに記入する。</p> 		☆でてきた意見が事実に基づいた妥当性のあるものかを考えさせ、意見を一つにまとめさせる。	

- 4 各班の意見について考える。
・他の班の考えについて質問したり意見を言ったりする。



他の班の意見・理由を聞いて自分たちの考えと比較したり、関連付けたりする。

- 5 本時のふり返しをする。
・本時の課題について考えたこと思ったことをワークシートに記述する。

☆話し合いの視点がぶれないように「不平等条約をなくすためにはどうすればよいのか？」という視点に戻って考えさせながら話し合いを進めさせる。

☆話し合いを通して思ったこと、感じたこと、なぜそう思ったのか、また最初の自分の考えと変わった点などを含めて記述させる。

(思考力・判断力・表現力を育むための学習活動の分類 表1の③、⑥)

⑦授業の考察 (○は言語活動にかかわる成果、●は課題となる点)

○学習問題について、最初に個人で考えなぜそう考えたのか、その根拠を記述させるようにして自分の考えを明確にさせた。そうすることによって班での学び合いの場面では、自分の考えを相手に分かるように説明したり、自分の意見と比べたりすることができた。またそれぞれの意見に妥当性があるかを考えながら学び合いを進めることができた。以下の会話は、班での学び合いの一部を取りあげたものである。

【学習問題に対して班での学び合い】 S: 児童

S1: 「私からいいですか。えー農民の気持ちを考える。理由は今まで農民の気持ちを考えずに制度を行ったりしたから。2番目には、政治を安定させる、政治を行う人たちのチームワークが悪いから農民たちまで被害がある。国のリーダーとしてしっかり責任を取って政治を安定させてほしい。いろいろな国と貿易すると、助けてくれるからいろいろな国と仲良くする」

S2: 「ちょっといい？ どうやって政治を安定させるの？」

S1: 「農民の人たちの気持ちを考えられるような政治を行えば、農民が政治に対して信じてくれるから。協力して政治を安定させる。」

S3: 「でもそれで同等以上の関係になるとは限らないと思う」

S1: 「だから、それとプラスたくさんの国と貿易するの。」

S3: 「不平等条約をなくす」

S1: 「え、すいません。どうやってなくすんですか」

S3: 「アメリカに訴えてなくしてもらえばよいと思います」

「不平等条約で日本が不利になってしまっているの、これをなくせば日本が不利になる理由は、あんまりなくなると思う。次は身分制度をなくす、一揆や打ちこわしで外国になめられて、黒船が来たりしているから、身分制度を無くせば一揆や打ちこわしがなくなるからです。」

S1: 「アメリカに訴えるって力が弱いのにどうやって訴えればいいんですか」

S3: 「船でいけばいい」

S1: 「だから、力弱いじゃん」

S4: (資料集の絵を指して) 「日本の船に比べて黒船はこんなに大きいんだよ！」

S1: 「これで戦えると思う？」

S3: 「戦うんじゃないくて、訴えるんだよ。」

相手の考えに対して方法を聞いている。

相手に分かるように理由も含めて説明している。

相手の考えに対して疑問をもつ。

関係性を見出し、なぜそう考えたのかを相手に説明している。

相手に方法を聞いている。

根拠をもって考えを述べている。

相手の考えに対して疑問をもち、妥当性があるかを考えている。

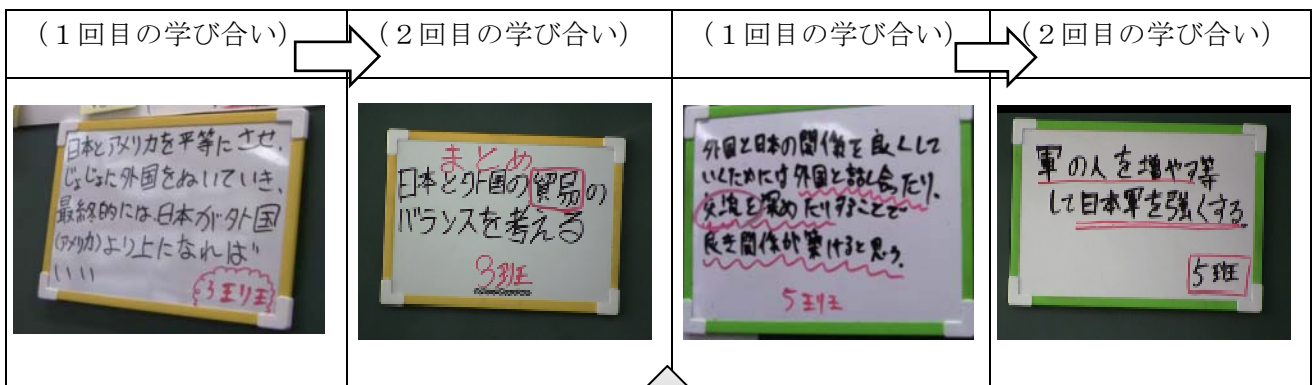
※ _____ は、相手に説明している場面 _____ は、相手に疑問・意見を述べる場面

- 学び合いの場では付箋にキーワードのみを記述するようにし、それを画用紙に貼りながら自分の考えを説明する活動を取り入れた。そうすることで自分の考えたことを整理して発言できた。
- 付箋に貼られた意見をキーワードの内容を考えて分類したり関連付けたりして、班での意見の方向性を出すために役立てた。



班での考えを出すために、それぞれの考えを分類して画用紙に貼り、分かりやすくした。

- 個人の学習問題の解決策としては「不平等条約を撤廃する」「外国との関係をよくする」などのようなものが多く、それにはどうすればよいかという具体策がなかった。またその後の班での学び合いでは、個人の意見をそのままつなぎ合わせているものが多かった。そこで学び合いのゴールを明確にし、もう一度、的を絞った学び合いを行うよう設定をした。具体的な手立てとなることによって班での学び合いも視点をもって行うことができた。



各班からでてきた意見は、前回の授業よりも具体的なものとなった。

- 学習問題の解決を図る場合、必ずしも班での考えを一つにまとめる必要がない。今回の2回目の話し合いでは「不平等条約をなくすためには新しい政府は具体的にどんなことをしていけばよいのだろうか」を軸に様々な考えが出された。このような考えを班で一つにまとめる事は難しい。次に示してあるものは、クラスでの学び合いの一場面である。班での考えを一つにまとめたために、自分たちの班以外の考えを受け入れにくい状況となった。このような流れにならないためには、学び合いの方法や各班の提示の仕方を工夫しなければいけないのではないだろうか。

3班：評判をよくするってどういう評判なんですか。

6班：日本の文化をよく知って評判をよくしたら他の外国の人にも知ってもらい、それで外国の文化を取り入れ外国と日本の関係をよくする。

4班：3班に質問なんですけど、貿易のバランスを考えるって具体的にどんなことですか。

3班：税を同じにするということです。

4班：税を同じにするぐらい、外国と同じぐらい日本は強いんですか。

3班：そうしたら4班に質問なんですけど、国会のような議会を開くことはできないと思います。話し合いとか無理だと思うんですが。

4班：国会というのは、国の会議なので外国は関係ないと思いますが。

先生：こうなると外国と話し合うのか、国内で話し合うのかということになるよね。

⑧ふり返りを通して

学習問題に対して個人で考え、グループで学び合い、さらにその考えをクラスでの学び合いにつなげた。その頃の日本の置かれている状況を十分考慮して、自分たちの考えと他の班の考えを比較、検討してそれらの意見が妥当性があるかを考えた。学習後のふり返りでは、自分の最初の考えと変わった点などを整理して記述できていた。

【学習後のふり返りの記述より】

- *はじめは、貿易のバランスを考えることだと思っていましたが、4班と意見を言い合っているうちに日本は外国と同じにできるほど強くないことと、外国との話し合いをするのは難しいことがわかり、日本がまとまりをもつことが大切であることがわかりました。
- *日本を強くするためには、軍人を増やして強くするのがいいと思う。外国との貿易という意見もですが、利益を同じにするほど日本は強くないと思う。日本の中で議会を開くのもいいと思いました。
- *はじめは西洋のように進んだ政治をとり入れるという意見に反対だったけれど、くわしく聞くと進んだ政治をとり入れて強い政府をつくっていくという意見はいいと思いました。他の班の意見の軍事力を強めるという意見もいいと思いました。
- *ぼくはさいしょ、外国と同等以上の関係を築いていくために日本の軍隊を増やし軍隊を強くした方がよいと思っていました。でも、ほかの班のいけんをきいて国の中で話し合っって国をたてなおしたほうがよいと思いました。

(3) 検証授業Ⅲ

①単元名 「物と重さ」 小学校3年生対象 理科 7時間扱い

②単元の概略

本単元では、「物は形が変わっても重さが変わらない」と、「物は体積が同じでも重さは違うことがあること」という見方や考え方を児童がもつことができるようにすること。そのために、児童の主体的な問題解決の中で、様々な物を用いて実験を行い、その結果を考察することにより、「粘土は～」「紙は～」ではなく、「物は～」と一般化して考えられるようにした。また、理科学習と出会う3年生の段階で、問題解決の過程を習得できるように、学習問題に対して、予想を立て、実験を行い、その結果から分かることを文章などで表現する活動を重視した。

③単元の目標

粘土などを使い、物の重さや体積を調べ、物の性質についての考えをもつことができるようにする。






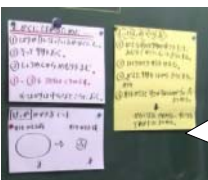



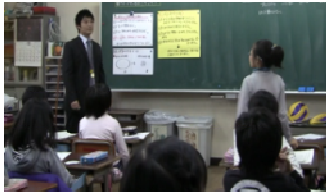
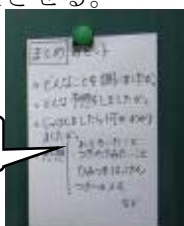
④評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	実験・観察の技能	自然事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 物の重さの現象に興味・関心をもって追究し、見いだした特性を生活に生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の形を変えたときの重さや、物の体積を同じにしたときの重さを比較して、それらについて予想や仮説をもち、表現している。またそれらを考察し、自分の考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な器具や材料を使い、観察、実験を行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物は形がかわっても重さはかわらないことを理解している。 物は体積が同じでも重さが違うことがあることを理解している。

⑤単元の指導計画（7時間扱い）

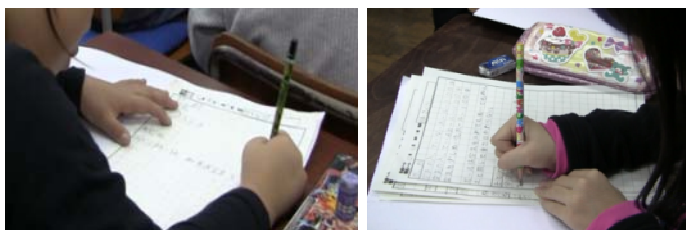
時	評価規準と評価方法	主な学習活動	言語活動
1 2	<p>[関]物の重さの減少に興味・関心をもって追究し、見出した特性を生活に生かそうとしている。 (授業の様子、ノート)</p>	<p>「いろいろなものの重さ比べをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 重さ比べをする。 物の重さについて気付いたことなどを発表する。 これからの学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 手ごたえやてんびんを使って物の重さを体感的に比較し、気付いたことなどを文章で表現する活動
3	<p>[技]簡単な器具や材料を使い、実験を行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。(ノート)</p>	<p>「ねん土の形を変えると重さはかわるのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘土の形を変えると重さは変わるのか予想する。 粘土の形を変えて重さを調べる。 結果から分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して予想を立て実験を行い、その結果から分かることをまとめる活動
④ 本 時	<p>[思・表]粘土以外の物の形を変えたときの重さを比較して、それらについて予想をもち表現している。 (ノート、発言)</p> <p>[知・理]物は形が変わっても重さは変わらないことを理解している。(テスト)</p>	<p>「ほかの物は形を変えたら重さはかわるのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な物の形と重さの関係について予想する。 身近な物の形を変えて重さを調べる。 グループで結果を比べ、分かったことを話し合い、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土の結果をもとに身近な物の形と重さの関係について図や言葉で予想し、話し合う活動 学習問題に対して、予想をたて実験を行い、その結果から分かることをまとめる活動
5	<p>[技]簡単な器具や材料を使い、実験を行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。(ノート)</p> <p>[知]物は体積が同じでも重さが違うことがあることを理解している。(テスト)</p>	<p>「同じ体積のとき、いろいろな物の体積を調べよう。パートⅠ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 同体積の物の重さを調べる。 結果から分かったことをまとめる。 次時の活動の見通しをもつ。 	
6	<p>[思・表]物の体積を同じにしたときの重さを比較して、それらについて予想をもち、表現している。またそれらについて予想をもち、表現している。またそれらを考察し、自分の考えを表現している。 (ノート、発言)</p>	<p>「同じ体積のとき、いろいろな物の体積を調べよう。パートⅡ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 同容積のフィルムケースに、自分で考えた物を入れ、他の物と重さを比べる。 結果から分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題に対して予想を立て、実験を行い、その結果から分かることをまとめる活動
7	<p>[知]物は形がかわっても重さは変わらないことを理解している。(ノート)</p> <p>[知]物は体積が同じでも重さが違うことがあることを理解している。(ノート)</p>	<p>「物の重さのひみつをまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までのノートをふり振り返りながら、学習したことや、物の重さについて分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を振り返りながら、物の重さについて分かったことをまとめる活動

⑥本時の展開

児童の活動 は言語活動	☆指導・支援 は評価				
<p>1 本時の学習について把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前次までに学習したことについて振り返り、本時の学習問題を把握する。 	<p>☆全体の考えが分かるようにホワイトボードに表して提示する。</p> 				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ほかの物は、形をかえたら重さはかわるのだろうか。 </div>					
<p>2 班での学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で予想をたてたものを班で話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 粘土の結果をもとに、身近な物の形と重さの関係について予想し、図や言葉で表現し、話し合う活動 </div>  	<p>☆粘土のときと比較させながら、自分の考えを班の中で発表させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 科学的な思考・表現 粘土以外の物の形を変えたときの重さを比較して、それらについて予想をもち、表現している。 (ノート、発言) </div>				
<p>3 全体での学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の中で、自分の考えを発表する。  	<p>☆自分の考えを発表する際には、ノートに記述されたことを読むだけでなく、自分の言葉で表現させる。</p> <p>☆実験結果については、「結果の書きかた」を参考にノートに図を入れて分かりやすく記述させる。</p>				
<p>4 身近な物の形を変えて重さを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が形を変えて重さを調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px 10px;">○折り紙</td> <td style="padding: 2px 10px;">○ハンガー</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px 10px;">○ビニールボール</td> <td style="padding: 2px 10px;">○アルミ皿</td> </tr> </table> </div>	○折り紙	○ハンガー	○ビニールボール	○アルミ皿	 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px; width: fit-content;"> 「正確に測るため」 「実験のやりかた」 「結果の書きかた」 を提示 </div>
○折り紙	○ハンガー				
○ビニールボール	○アルミ皿				
 	<p>☆実験器具の操作ミスや重さが変わるはずという思いこみからくる「重さがかわった」という誤概念が生じたときは、班で相談させ、繰り返し実験できるようにする。</p>				
<p>5 調べたことを班ごとに発表し、結果をまとめる。</p>  	<p>☆他の人に分かりやすい発表内容になるよう、教師が「事柄」「理由」「比較」に留意させながら発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> まとめるヒントを提 </div> 				

6 学習のふり返しをする。

学習問題に対して、予想を立て、実験を行い、その結果から分かることをまとめる活動



☆今までのノートをふり返しながら、今日やったこと、分かったこと、考えたことを記述させる。

(思考力・判断力・表現力を育むための学習活動の分類 表1の③、⑥)

⑦授業の考察 (○は言語活動に関わる成果、●は課題となる点)

○予想、実験、考察、まとめの過程が分かるように思考過程の可視化を図るノートづくりを行うことによって、過去の実験結果をもとに学習問題を帰納的に考えることができ、ふり返りの記述内容が深化していく様子がみとれた。

	<いろいろな重さ比べをしよう>	<ねん土の形をかえたら重さはかわるのだろうか>	<ほかのものは形をかえたら重さはかわるのだろうか>
児童A	新聞紙が鉄より重いことがわかった。(びっくりした)ねん土より新聞紙のほうが重くて鉄よりねんどの方が重いことがわかった。(びっくりした)同じ鉄なのに重さがぜんぜんちがうのがわかった。	今回はねん土の形をかえたら重さはかわるのかを調べました。わたしは、形をかえてもねん土をへらさなければ重さはかわらないとよそうしました。じっけんをしたらよそうは当たって形をかえてもねん土をへらさなければ重さはかわりませんでした。つぎは折り紙でじっけんしてみたいです。	今回は「ほかの物は形をかえたら重さはかわるのか」を調べました。わたしのはんは、ボールでじっけんをしました。わたしは、重さはかわらないと予想しました。じっけんをしたら、予想は当たって重さはかわりませんでした。ほかのはんが調べた「アルミざら」と「ハンガー」と「おり紙」も予想が当たって、重さはかわりませんでした。なので、みんなのけっかからわかることは「重さはいくら形をかえても、ねん土と同じようにたしたりひいたりしなければ、重さはかわらないことがわかりました。
児童B	鉄のかたまりだから1番重いのと思ったのに新聞紙が1番重かったからびっくりした。目でみただけじゃ重さはわからないとわかった。	わたしは今回のじっけんでねん土の形をかえて重さをはかりました。わたしはぜったいにつぶつぶと平べったいねん土のは、かるくなると思ってたけど、けっかはつぶつぶも平べったいねん土もどっちもかわらないというけっかでおわった。さいごにWさんとNさんのところでつぶつぶがおもくなる時いたからびっくりしたけど3回目にWさんとNさんがじっけんをやったけど、さいしゅうてきにはぜいいんかわらないでおわったから、さいごにはぜんいん同じけっかでおわってちょっとざんねんでした。	わたしが今回のじっけんでアルミ皿、ハンガー、ボール、おり紙でわたしはハンガーを調べました。わたしがよそうしたのは、ハンガーはかわらないというのです。そしてそのよそうは、あたりました。さいしよのハンガーの重さは33gでした。そしてNさんがやったりボンの形をしたハンガーをデジタルのはかりではかったら33gぴったりでした。なのでよそうはあたりました。そして今回のみんなのじっけんでわかったことは、物はかたちをかえてもたしたりひいたりしなければねん土と同じように重さはかわらないということがわかりました。ほかの物ももうすこし調べてみたいです。今回のじっけんはデジタルのはかりだったのでせいかくにはかれたと思います。とても重さはおもしろいとおもいました。

○学習問題に対して、予想を立て、実験を行い、その結果から分かることをまとめる活動を繰り返し行うことによって、記述することが苦手な子どもも少しずつ記述できるようになってきた。

子どもの状況	単元の最初の授業場面のノート「いろいろな重さを比べてみよう」	最後の授業場面のノート「他のものは形がかわったら重さがかわるか」
書くことはたくさん書けるが、いつも内容がまとまらない。	<p><重さくらべをして気づいたこと>さいしょにでんちが、いちばんかと思っただしんぶんしがいちばんでした。よそうしてあたるかなと思っただんですが、ぜんぜんあたらなかったのでもう1かいやりたいです。</p>	<p>→ <みんなのけっかからわかること>物はかたちをかえてもねん土と同じで重さはかわらない。<なぜ>形をかえてもかわらない理由は、たとえばねん土だとして、つぶつぶとかひらべたいのは、その中のねん土でやっているのだから、どんなに大きくしても、どんなに小さくしたとしてもその中でねん土でやっているから、形をかえても重さはかわらない。<まとめ>今回はボールとアルミざらをじっけんしました。ボールはかるくなると思いました。なぜかという、くうきはいっているからです。それでじっけんしてみました。くうきをふくらまして、はかってみたら100gでした。2回目も100gでした。すこしくうきをぬいても100gでした。アルミざらをじっけんしてみました。アルミざらは9gだけど8gだと思います。なぜかという、形をかえたら、8gと7gとかになっていて、いちばん多かったのが8gだったので、形をかえても重さはかわらないと思いました。</p>

●実験結果を全体の場で説明する場面では、教師と児童との一問一答になってしまった。小学校3年生という年齢を考慮し、実験結果を発表するときには何を伝えなくてはいけないのかが分かる「発表のポイント」を提示する必要があった。

【「ほかのものは形をかえたら重さはかわるだろうか」の実験結果を説明する場面】

T: 教師 S: 児童

T: 今日までのところで結果を教えてください。ハイ、アルミ皿のところどうぞ

S: ほとんど重くならなかったけど、Gさんがアルミ皿を丸めたのを計ったら、35gに増えていました。

T: もともと何gだったの？

S: もともと30gでそれで35gに増えていました。

T: というと増えていたのもあったってこと？

S: (うなづく)

T: 結論はでないということ？それとも、もうちょっとやりたかってこと？

S: もうちょっと・・・デジタルでやりたい。

T: あ～そう、デジタルでね。じゃあアルミ皿のもう1班のところは？はい、どうぞ。

S: 最初は35gで、それで何をやってもかわらなかった。

T: 先生じゃなくってみんなに言ってごらん。

S: (後ろを向いて) 最初は35gでそれから何をやってもかわらなかった。

T: 結論は？

S: 何をやってもかわらない。

児童の1回の説明だけからは、実験結果の全容やそれを踏まえてどんな課題をもったのか分からない。段階を追って教師が質問し児童の発言を促している。しかし本来ならば、児童が自ら考えて実験結果を発表してほしい。何を発表しなければいけないのか項目で提示されていれば、それにしたがって発表することができるのではないだろうか。

⑧ふり返りを通して

単元の終わりに学習のふり返りをさせた。自分が予想したことから実験の結果の考察まで、考えたことを絵や文章で表現させた。その際、まとめ方が分からない児童に対しては「まとめるヒント」を教師の方で提示し参考にさせた。

右の図3のワークシートは、児童が単元の最後にB4、1枚に学習のまとめとして書いたものである。単元を通してのふり返りを行うことで、今まで学習したことをもう一度自分で確認し、解釈して記述する機会を設定できた。記述していく中で自分の考えが再構築され、単元の学習の理解が深まる有効な学習活動となった。

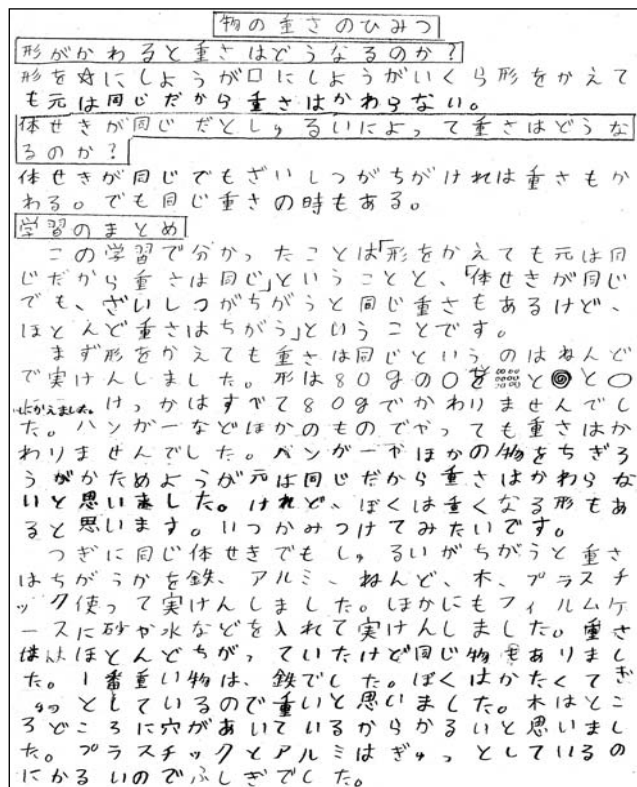


図4 単元のふり返りのワークシート

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究から見えてきたこと

(1) 思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実

本研究では、児童生徒の現状を踏まえ、問題解決的な学習を行う上で一つの学習問題に対してじっくり考えさせる時間をとり、その際に児童生徒が学習問題に対して「なぜその問題を解決しなければいけないのか」の目的意識をもつような授業設定をした。また、単元の指導目標を十分考慮した上で授業内容を工夫し、さらに言語活動をどのように位置付けていくのかを考え、指導計画をたてた。たとえば国語の古都の魅力をプレゼンテーションする場面では、他者に分かりやすく伝えるために、聞き手を意識して明確に伝えること、そして体験したことを写真や絵、言葉で表現するなど工夫しながら伝える学習活動を行った。そうすることによって生徒自身が何のために学んでいるかの目的意識をもって学習に臨むことができた。また小学校の社会科では、調べたことを考慮し、根拠や解釈を示しながら、小集団そしてクラスの中で互いの考えを伝え合ったり、自分の考えや集団の考えを発展させたりするような学び合う活動を意識して行った。これらの学習活動を行うことで自分の考えと他者との考えの違いに気付いたり、相手の考えについて妥当であるかを考えたりして、これからの学習に対して問題意識をもち、次への学習につながられるものとなった。そして、小学校の理科においては、学習問題に対して予想し実験し結果から分かったことを「何が」「どのように」「どうなったのか」そして「どう思う」か、思考過程を可視化させることによって児童自ら考えを整理させることができた。これらの3つの授業実践の結果から、各教科の目標を達成させるためには、授業の中で言語活動の充実に努める学習活動を適切に行うことが大切であり、さらにそれらの学習活動を繰り返し行うことが児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むことにつながっていく。

(2) 授業づくりで大切なこと

問題解決的な学習を進める中で学び合いをさせる際に、テーマや目的に立ち返らせることで、視点がぶれずに学習活動を行うことができた。特に考えを広げたり深めたりする場面では、「それってどういうこと?」「何でそう思うの?」「比べてみてどう?」と教師が意識して問いかけることで、児童生徒の思考が焦点化されるようになった。

また、学習問題に対して予想を立て、観察・実験を行い、その結果を考察、まとめをする際に、思考過程の可視化を図ることで、前の時間に考えたことを確認でき、なぜそう考えたのか根拠を明らかにして、これからの自分の課題の発見につなげられるような学習となった。

そして思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを行うためには、問題解決に向けてじっくりと考える時間を保証し、児童生徒が主体的に学び合う学習活動を行っていくことが大切であるということが分かった。

2 今後の課題

思考力・判断力・表現力を育むためには、学び合う中で言語を通した学習活動を充実させることが大切であり、何よりもそれを教師自身が意識的に取り入れていくことが必要である。そして単元の目標を達成させるためにどのような学び合いをすれば思考を高めていくことができるのかは、学び合いの方法や方向性を示すための教師の手だてが必要となる。今回の検証授業を踏まえて、今後も思考力・判断力・表現力等を育むためには、どのような学習活動が有効なのかを課題として研究を進めていきたい。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生を始め学校職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼を申し上げます。

【参考文献】

- ジェニ・ウィルソン&レスリー・ウィング・ジャン 吉田新一郎・・訳 新評論
『「考える力」はこうしてつける』 2004年
- 西村 克己 『論理的な考え方が面白いほど身につく本』 中経出版 2005年
- 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 FYプロジェクト編
『読解力』とは何か 三省堂 2006年
- 高木 展郎 編集 『各教科における言語活動の充実 その方策と実践事例』
教育開発研究所 2008年
- 神奈川県川崎市立中原小学校編 『生きてはたらくことばの力を育てる カリキュラムの創造』
三省堂 2009年
- 梶田 叡一・甲斐 睦朗 編著 『「言語力」を育てる授業づくり 中学校』 図書文化 2009年
- 白井 達夫 『授業を豊かにする 28の知恵』 三省堂 2010年
- 財団法人 学校教育研究所 『新しい教育課程における 言語活動の充実』 学校図書 2010年
- 文部科学省 『言語活動の充実に関する指導用事例集
～思考力・判断力・表現力の育成に向けて』【小学校版】 2010年
- 中村 祐治・尾崎 誠 『「学力の3要素」を意識すれば授業が変わる！
「なんとなく」から「ねらって育てる」授業へ』 教育出版 2011年

【指導助言者】

- 横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター 主任研究員 白井 達夫
- 川崎市小学校教育研究会 副会長（川崎市立麻生小学校長） 大井 澄子
- 川崎市立中学校教育研究会 総則部会長（川崎市立稲田中学校長） 芹沢 成司
- 川崎市総合教育センター指導主事 藤中 大洋